



POINT 1
思・判・表

文章全体の構成を意識しながら、自分の考えを表現する授業デザイン

「書くこと」の指導においては、書く目的や意図を子どもと教師で共有することが重要になると考える。教師からの一方的な課題等の提示であれば「ただ書く」「先生から言われたから書く」という意識が働いてしまい、指導の効果を高めていくことはできないだろう。そこで、相手・目的・場面・状況等を意識し、文章全体の構成を考えたり、それを他者と推こうしながら捉え直したりすることで、「書くこと」に関わる資質・能力を高めていくことができるような実践例を紹介していきたい。

1 複数の文章（対象）との比較

子どもが自分の文章全体の構成をイメージするためには、課題等の共有の前後に「解決したいという思い」や「自分の文章や対象となる文章の構成の不完全さや不十分さ」を自覚することが大切であると考えられる。以下に、具体的な手立ての例を示したい。

- ・複数の文章との比較から、どちらの(どの)構成が効果的かを問う。
- ・前時までの一人一人の文章をロイロノート等で視覚的に共有する。
- ・教師が作成した、言語意識が不十分な文章を提示する。
- ・文章の一部分を空所（空白）にする。

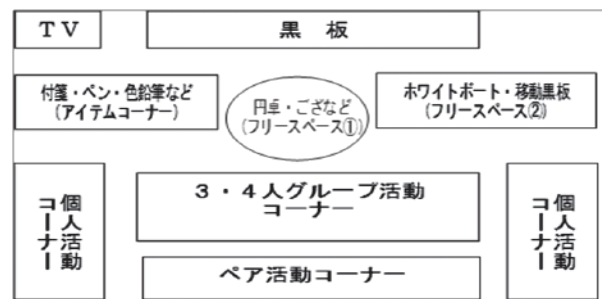
これらの手立てと併せて、全体交流等で子どもが納得解を見出そうとしている場面において、次のように教師が関わることで、指導の効果を一層高めていくことができるようにしたい。

- ・自分の考えはなぜ変わったか？なぜ変わらなかったか？
- ・自分の文章の何を修正したのか？それはなぜか？
- ・どの文章でもそのように言えるか？
- ・(新たな比較対象を提示して) この文章を見てどう思うか？

【具体的な発問や問い返しの例】

2 学び方の自己選択を促す

指導事項や手立てを明確にした上で、子どもたちが自ら学習方法を選択できるようにすることで、次の学びにもつながる資質・能力が育っていくと考える。子どもが書いた文章構成を教師が添削することを前提とするのではなく、下の図のような「人」「物（道具）」「場所」の自己選択を促し、単元を通して子どもが自分(たち)の考えの不明確さに気付いたり、必要感をもって推こうしたりできるような環境を提供することを大切にしていきたい。そのためには、国語科の他単元や他教科等で類似した取組を蓄積していく状態が望ましいと言えるだろう。



- ※ 必要に応じて他教室も活用する
- ※ 国語科の他単元や他教科でも類似した取組を蓄積する

【学びの自己選択を促す教室環境の例】

授業デザイン

音更町立木野東小学校 教諭 程野 純貴



小学校3学年

小学校5学年

中学校1学年

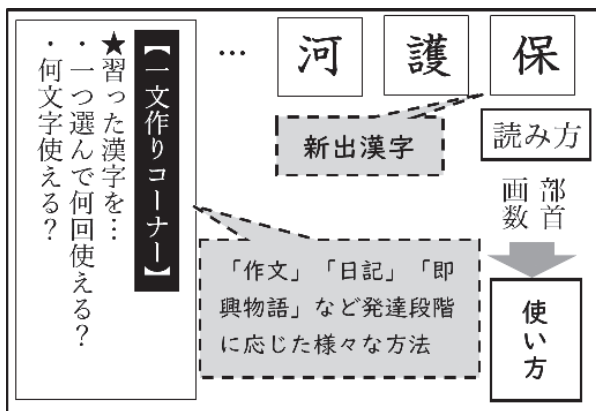
POINT 2
知・技

言葉に親しみをもちながら、語彙力を高めていく授業デザイン

学習指導要領で示されているように、5学年においては「漢字のもつ意味を考えて使う習慣」「話や文章の中で使う」「使いこなせる語句を増やす」等を意識し、指導方法を工夫することが重要であると考えます。以下、日常的な漢字指導の中で講じる手立て及び実生活との関わりの中で講じる手立てについて紹介していきたい。

1 1単位時間の漢字指導～点として～

新出漢字を指導する際には、子どもが機械的に覚える時間ではなく、能動的に思考する時間になるように働き掛ける必要があるだろう。そこで、子どもと対話しながら作る板書の一例を示したい。



【子どもと対話しながら作る板書の例】

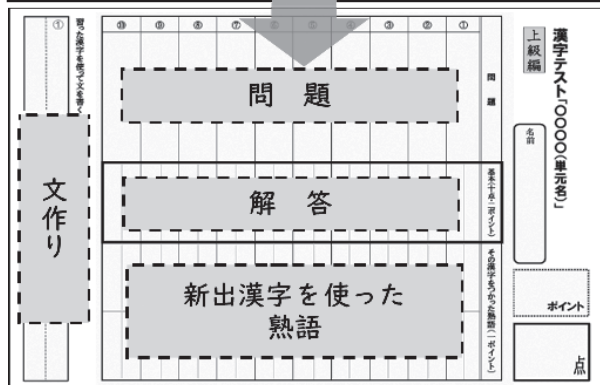
このような指導は、学級としての基本を定めつつ、必要に応じてICT機器を活用するなど、子どもの実態を的確に捉えながら指導の工夫を図ることが大切であろう。

また、日常的に漢字小テストを実施する場合は、複数の漢字を一度に覚えることに苦手意識をもつ子どもでも、前向きに取り組むことがで

きるよう、テスト形式の工夫を図ることも手段として考えられる。

参考例

- 実施日の工夫
 - ・10問を週3回に分けて実施(重複問題含む)
 - ・初級(水曜日)、中級(木曜日)、上級(金曜日)と進んでいく形で実施
- 点数に加えたポイント制の導入
 - ・基本問題を活用した熟語や文作りも含めたポイントの付加



【漢字小テストのレイアウト例】

2 中期的・長期的な語彙指導～線として～

新出時の指導に加え、様々な場面で意図的・計画的に言葉に親しみをもてるような授業デザインが求められるだろう。子どもの主体的な姿を引き出し、自ら言葉と関わりながら語彙力を高められるような指導を工夫したい。

- 物語文や説明文等を学習する際に、並行読書が必要となる言語活動を位置付ける。
- 他教科等においてもアウトプット(新聞・リーフレット・スライドなど)する機会を増やす。